

令和4年度第2回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和5年2月16日(木) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいております。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

また、本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただき、感謝申し上げます。

私たちの生活に大きな影響を与えている新型コロナウイルスは、本県で初めて感染者が確認されて、まもなく丸3年を迎える。

こうした長期にわたるコロナ禍の中で、子ども達は、授業や学校行事等で、様々な制約を受けてきたが、この度、政府は、5月8日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを「5類」に引き下げの方針を決定した。

これにより、今後、学校生活も正常化に向けて進み、本来の姿を取り戻していくこととなるが、私は単にコロナ禍前に戻るのではなく、コロナ禍を契機に、全国に先駆けて整備したデジタル環境を活かし、より充実した学びを子ども達に提供する取組をしっかりと進めてまいりたいと考えている。

さて、県では、県民の皆様方の命と健康を守り抜き、新型コロナウイルスで傷んだ社会経済を再生するとともに、様々な社会変革の先にある本県の「新たな未来」を見据え、県づくりを力強く前へ進めていくため、昨年末、新たな県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」を策定した。

今年は、このプランに沿った新たな県づくりの取組を本格的にスタートさせていく重要な年であり、これまで進めてきた取組の基盤の上に立って、「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向け、積極的に取り組んでまいり。

そして、この県づくりの取組の中でも、私は、本県の新たな未来を切り拓いていくため「人づくり」がとりわけ重要であると考えている。

このため、一昨日発表した来年度当初予算案では、本県の将来を担う若者の育成に向けた奨学金返還支援制度の創設や、高い志をもった高校生へのハイレベル課外授業の充実、幼児教育・保育の場における誰もが等しく育ち・学び・遊べる環境の整備など、新たな施策を盛り込んだところである。

本日は、来年度当初予算案のうち、「令和5年度重点取組方針」に関する主要な事業と、来年度策定を予定している「次期教育大綱」について、皆様から御意見を賜りたいと考えている。

私は、引き続き、県教委としっかりと連携・協働しながら、山口県を舞台に活躍できる若者の育成にしっかりと取り組んでまいりたいと考えているので、委員の皆様には、幅広い見地から、忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願いしたい。

5 議事概要（議事進行：知事） ※委員発言：● 事務局説明等：○

（1）令和5年度重点取組方針主要関連事業（案）について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●佐野委員

令和5年度重点取組主要関連事業について、新型コロナウイルス感染症以前の取組に比べて、大きく変化している。SF小説のように4、5年前にタイムスリップして、この重点取組方針を見たら、ICT活用の導入や広がりについて、本当に驚くのではないかと思う。しかし、問題点も出てくると思うので、知事が先ほど言われたように、後戻りすることなく、良い方向に推進することを期待している。全体的にデジタルを効果的に活用し、さらに加速してくる取組になっている。また、「やまぐちスマートスクール構想推進事業」では、時間と空間を超えた遠隔授業の実現に向けた内容となっており、文字だけを見てもワクワク感が出ており、ハワイ州と姉妹提携を行ったことで、これまでの枠組みを超えた取組が期待できる。単なる英語教育に留まらず、ハワイ州の教育の良い所や、文化が違うからこそ、積み重ねてきたノウハウなどを取り入れることができれば、素晴らしい取組になると思う。アメリカは多民族国家であるため、人種のるつぼと言われてきたが、最近ではサラダボウルと言われている。ハワイ州は日系の方も多いので、急速に多様化が進む日本にとって、参考になる事例も多いのではないかと思っている。また、アメリカにはリベラルアーツ教育の考え方があり、日本でも一部の大学や高校が同様の試みをしているが、日本とは少し捉え方が違うとの意見もある。1つの回答を求めるのではなく、様々な角度から物事を考える柔軟な思考が必要であり、子ども達が自分達の人生を切り拓く際に大変、大切になると思う。このようなりベラルアーツ教育が、山口県においても、既に進んでいる探究学習やアクティブラーニング、教科間連携、社会課題の発見・解決について取り組むコミュニティ・スクール等にも関連すると考えている。山口県の取組をさらに推し進めるためには、そのような姿勢やモノの捉え方を子ども達が感じ取り、効果的な教育手法として取り入れていただきたいと思っている。

また、依然として課題になっているいじめ・不登校については、コロナ禍を経て、新たな展開になってきている。まず、いじめについては、早期に察知することがより難しくなっており、ネット上でのいじめが増加するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での状況把握が難しいなど、子ども達の変化を周囲の大人が感じにくくなっているため、「SOS」のメッセージを捉えることができない、寄り添うことができないなどの問題に直面している。令和5年度重点取組主要関連事業に「中学校及び高校0年生からの教育相談事業」の取組が記載されているが、他県でもメールやLINE等のSNSを利用した相談窓口を設置するなどの対応が進んでいる。1人1台タブレット端末や個人携帯端末のホーム画面に相談用アプリのアイコン登録や、オンラインでの相談

窓口の設置等、従来の対応に加えて、相談しやすい環境を作ることが大切である。また、被害生徒へのケアだけではなく、加害生徒に対する指導や学校だけでは対応できないような犯罪行為等が起こった場合の警察との連携も必要である。

次に、不登校は全国的にも増加しており、本年度の全国都道府県教育委員会連合会の総会でも大きな問題として協議された。山口県においても増加傾向にあり、無視できない数値となっている。最近では、無理をしないで学校に行かせないという考え方もあり、このまま社会と繋がらない子ども達が増加し、その対応がなされない状態が続けば、多くの社会で活躍する力が損なわれていく状況になってしまう。これは、単に個人の問題と片付けられない状態である。学校に行けない子ども達にも、教育の機会を確保し、学び直せるというメッセージを伝え、ゆっくりでも良いので、再出発できるような柔軟な対応を用意することが必要である。

いじめ・不登校も、社会や子ども達の多様化に従って、一つの枠組みでは対応が難しい状況になっており、その状態に応じた重層的な対応が必要である。

今回の重点取組方針には、各種の施策が組み込まれており、それらが重層の取組に繋がることで、全ての子ども達が安心して教育を受けることができる環境になってほしいと思う。

最後に、これらの取組が、変化が激しい時代の中で、子ども達が将来を切り拓く力に繋がり、山口県教育の力が山口県の県づくりに繋がることを期待する。

●村岡知事

子ども達には、整備されたデジタル機器・環境を活用し、さらに可能性を広げてほしいと考えている。

また、ハワイ州には、日本からの移民が多い。最も多いのが沖縄県であり、次に山口県、広島県あたりで、ハワイ州の各島にはそれぞれの県人会がある。県人会の方にも非常に後押しをしていただき、ハワイ州前知事の母親は、山口県の周防大島出身の方であり、スムーズに友好関係を結ぶことができた。この取組は本当に重要であると思っており、多様性が求められるこれからの時代の中で、どのように子ども達が向き合っていくのかを日本国内で学ぶことも必要であるが、アメリカは歴史が長く、また、環境が整っているため、得られるものが多くあると思っている。これからの多様性に満ちた時代をどのように生き抜いていかなければならないかを考えるとともに、必要な力を身に付けることが大変重要であると思っている。教育長がハワイ州に行かれていますので、次に繋げてくれると期待している。

それから、いじめ・不登校の問題についても、コロナ禍によって本当に深刻な状況になっている。そのため、色々な対応が求められており、出口もそれぞれあるので、重層的な対応が必要であり、また、そうした視点で取り組んでいくことが重要であると思う。特にいじめ・不登校については、本当に深刻な問題になっているので、私からも、是非、大きな柱を立ててやっていただきたい

と県教委に想いを伝えていた。来年度は、県教委の方でも、しっかりと対応いただくこととなったので、大変嬉しく思っている。是非、色々と御意見等もいただきながら、良い形で取り組んでいただきたい。

●小崎委員

先日、お忙しい中、知事に萩東中学校に来ていただき、大変感謝申し上げます。想いの一つが叶った。また、今回の実現に向けて、関係者の方々にも御尽力いただき、大変感謝申し上げます。生徒はもちろん、私達や地域の方々も本当に中身の濃い素晴らしい時間を過ごすことができたと思っている。萩東中学校の校長から、生徒の感想が記載されたお礼状を預かっているので、また御覧いただきたい。私もこの感想を読ませていただいたが、やはり知事が生徒の質問に本当に分かりやすく、熱くお答えいただいたので、子ども達にも印象に残ったようである。生徒達は、山口県や萩市のことをもっと自分なりに考えていきたいとか、何か貢献してみたいとかを考えており、改めて私も学ばせてもらった。やはりテレビ画面ではなく、生の知事に会うことができたということで大変嬉しかったし、直に知事の声が聞けることができたので、子ども達にとっても大変、刺激になったようである。先生方も言われていたが、知事の熱い想いが聞けて良かったとすごく盛り上がっていた。このような想いを萩東中学校の生徒だけでなく、色々な中学校を視察していただき、知事の想いを直に子ども達に話していただきたいと思っている。

令和5年度重点取組主要関連事業では、色々な体験活動ができる魅力的なプログラムが多く組み込まれているので、本当に嬉しく思っている。特に「地域と連携したリアルな体験活動充実事業」は大変素晴らしい事業だと思っている。この事業は、高校生や大学生が企画・立案し、いじめにあった生徒・不登校生徒等を優先的に参加させると別の資料で拝見した。やはり、子ども達の中にも、将来に向かって頑張るぞとか、やりたい・あれもしたい・これもしたいという子ども達もいると思うが、どうしても前に進めることができない、色々な悩みを抱えている子ども達もいるので、そのような子ども達が、少しでも何か一つのきっかけを見つけて、前に進めるようになっていただきたいと思っている。あと一人ひとり、子ども達は違うので、その子ども達に合った取組ができるように、もちろん地域の私達も関わっていききたいと思っているし、県の方もそのような取組を充実させて、より中身の濃い取組にしていただきたいと思っている。

●村岡知事

萩東中学校をようやく視察することができ、大変嬉しく思っている。クラスの様子を見させてもらったが、生徒達は何事にも積極的、意欲的に取り組んでおり、また、地域への想いが非常に強いことに驚かされた。本当に素晴らしいと感じた。また、小崎委員をはじめ、学校を支えている皆さんも学校に対する想いが非常に強く、とにかく子ども達を中心に考えておられ、どのようにすれ

ば、萩東中学校の子ども達に良い環境、学びを提供することができるのかを常に考えているとお聞きし、大変素晴らしい取組であると感じた。是非、このような取組が、他の地域にもどんどん広がっていくと良いと思っているし、広げていくために色々な仕組みを新年度の予算でも入れている。後は、具体的に実行に移していくことができれば良いと思っている。私もコロナ禍になって、各地域に殆ど行くことがなかったので、生徒の前で話す際、緊張していたけれども、生徒に何かを伝えることができたので嬉しく思う。また、子ども達の感想もドキドキしながら見させてもらおうと思っている。私も色々な機会を通じて、教育現場を視察することで、色々なことを学び、県の取組として反映していきたいと考えている。

あと、「地域と連携したリアルな体験活動充実事業」では、コロナ禍を乗り越えて、色々なリアルな場をフル活用していかなければいけないと思っており、子ども一人ひとりの状況に応じて、一步踏み出せるような環境を整えていくことが大切なことだと思っている。新事業であるが、来年度、進めながら改良も行い、全ての子ども達が前に踏み出せるような事業にしてほしいと考えている。

● 穎原委員

令和5年度重点取組主要関連事業について意見を述べさせていただく。各事業の中で「私立幼稚園預かりサポート推進事業」や「地域こども・子育て支援事業」、「やまぐち若者育成・県内定着促進事業」等に対して、予算がかけられており、少子化対策や子育て、奨学金対策にかなり力を入れられていると思う。

また、新規事業「やまぐちの未来を創るフロントランナー育成事業」は、県内の医療従事者を確保するためにも有効であると思っており、東京大学先端科学技術研究センターを訪問することで、生徒達が最先端の研究に興味を持ってもらい、山口県の将来を担う人材の育成に繋がると期待している。

諸課題に対応するために、新規事業が増えていることは大変良いと思うが、全ての事業を管理していくのは、かなり大変だと思うので、既存事業の見直し、場合によっては廃止した方が良いのかも含めて、御検討いただきたい。

教育のICT化については、かなり力を入れられており、教育の現場においても効果が出ていると思っている。アナログ教材は良い面もあるが、通学時の鞆が重くなって、子ども達の体にも影響が出てしまうので、デジタル教材を増やすということも御検討いただきたい。

学校部活動の地域連携・地域移行については様々な課題もあり、各家庭で部活動の参加費が負担とならないように、御配慮いただきたい。

引き続き、教育事業が円滑に進められていくことを期待している。

● 村岡知事

「やまぐち若者育成・県内定着促進事業」について、経済的な理由で学ぶことができない、将来の夢を諦めることがないように、この度、奨学金返還補助制度を創設することにした。今後、確実に実行していきたいと考えている。

あと、「やまぐちの未来を創るフロントランナー育成事業」では、ICT環境を活用して取り組むハイレベル課外授業等をこれまでも行っており、これをさらに充実させていきたいと考えている。「メディカル・フロントランナー育成コース」は、特に医師確保に向けた対策である。医師は、人口比でいうと他県と比べて遜色なく足りているが、山口県は高齢化率が全国の中でも最も高く、高齢の医師の方が一気に辞めていくと、医師不足になってしまう。若い人たちが地元山口で医師として頑張ってもらいたいという思いがある。山口大学と連携を取りながら、地元山口で進学し、地元で頑張ってもらいたいと考えている。本県では、ICT環境が整備されているので、フルに活用いただきたいと思っている。

それから事業の見直しについては、それぞれの担当課が考えていると思うが、当然、時代に合った施策にしていかなければいけないと考えているので、今後も精査し、一定の見直しを行いながら、前に進めていくことが重要であると思っている。

学校部活動の地域連携・地域移行については、国の方針が大きく変わったりしているので、学校現場や教育委員会の皆さんも大変であると思うが、それだけ難しい問題でもあると考えている。担い手や家庭の参加費負担の問題点もあるが、やはり子ども達にとって、より良い環境に整備していくことが重要であると思っている。また、地域の状況に応じて、最終的な形を作っていかなければいけないと思っている。今後、国の方からも色々な方針等が示されると思うが、地域でしっかりと議論を重ねていくことが重要であると思っている。保護者も含めて、色々な方々の意見を聞きながら、最終的な形を目指していきたいと考えているので、県教委も引き続き、大きな課題として取組を進めていただきたい。

●和泉委員

知事の冒頭の挨拶の中で、「新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下がることで、今後、学校生活も正常化に向けて進み、本来の姿を取り戻していくこととなるが、単にコロナ前に戻すのではなく、より充実した学びを子ども達に提供する取組をしっかりと進めてまいりたい」とお聞きして、非常に頼もしく思った。是非、コロナ禍前以上の取組が実現できるように進めていただきたいと思っている。

まず1点目は、情報通信機器の活用であると思っている。先日、ハワイ州に高校生が行ったが、そこに参加できなかった他の高校生、中学生も、情報通信機器を活用することで、時間と空間を超えて色々な経験ができると思っている。引き続き、通信環境の充実に向けて、取り組んでいただきたい。また、関連して、先ほど開催された教育委員会会議でも話題になったが、最近ニュース等でChatGPTが話題になっている。何か質問をすると、人工知能を駆使して、AIが回答してくれるというような時代が、すぐそこまで迫ってきている。もの凄い社会変化だと思うので、これからも知事のリーダーシップのもと、情報

通信機器の活用に向けた取組をお願いしたい。

2点目は、「やまぐち若者育成・県内定着促進事業」での奨学金返還補助制度や「県立高等学校再編に係る遠距離通学支援事業」での通学費支援、学校部活動の地域連携・地域移行における参加費負担等について、全ての子ども達を取り残さない形で支援いただきたいと思っている。

3点目は、地域連携教育の充実についてである。先日、私が勤務している大学で、他県の教員採用試験に受かっている学生が、大学院を受験してきた。その学生に理由を聞くと、山口県の地域連携教育を学んで、地元に戻りたいと言っていた。山口県として一番の売りになっている地域連携教育を、これからも推進して欲しいと強く思っている。

この間、萩東中学校を視察したが、非常に充実した取組を見させていただいたと思っている。コミュニティ・スクールの関係者が不登校生徒を支援する取組を、今年度から始められたということをお聞きした。地域と連携することで、不登校やいじめがなくなるような方向に進めていただきたいと思っている。

最後に、この度、宇部西高等学校等の再編整備が行われたが、これから少子化が進む中で、ますます、県立学校の再編整備等が進んでいくと思う。やはり子ども達がこの高校で学びたいと言ってもらえるような特色ある学校づくりを目指して欲しいと思っている。さらには、隣県からも入学してくるような魅力ある高校づくりに取り組んでいただきたい。

これからも知事にはリーダーシップを発揮していただき、山口県の教育がますます充実したものとなるようお願いしたい。

●村岡知事

時空と空間を超えて、海外の学校と繋がることについては、「やまぐちスマートスクール構想」で目標を掲げており、達成されていると聞いている。ICTを活用することで、国際社会での色々な価値観、多様性にも触れながら学ぶことができると思っている。また、ChatGPTのようにAI技術が進化しているので、今後もICT教育に組み込んでいく等の対応が必要であると考えている。生徒達が新たな時代に対応できる力を身に付けるためにも、これからもICT環境を充実させるとともに、「やまぐちスマートスクール構想」を進めながら、新しい環境の変化に対応することで、ますます進化させていかなければいけないと思っている。

また、「やまぐち若者育成・県内定着促進事業」において、奨学金返還支援制度を新たに創設した。やはり、経済的な理由で、子ども達の学びが損なわれることがないようにしなければいけない。少子化対策という面で、出産しない一番の大きい理由は、経済的な負担が大きいということが現実的にある。そのような子育てを支援するための仕組みがあるということは、大きくプラスになっていくと思う。

また、萩東中学校のように、コミュニティ・スクールの関係者が不登校生徒に対応する取組についても、非常に素晴らしいと思う。やはり、学校だけの間

題だけではなく、地域の方々の力も借りながら、1人1人の子ども達に向き合っていて、解決をしていくことは大きな力になっていくと思う。是非、この仕組みをもっと良い形にレベルアップをされ、1人1人の子ども達にとって、良い環境を整備いただきたい。

また、大学院生が山口県の地域連携教育を学び、地元で進めていきたいことについて、大変嬉しい気持ちである。本音は、山口県に残って頑張っていたきたいが、山口県の地域連携教育が他県でも広がることは嬉しいことなので、これからも自信を持って前に進めていきたいと思った。

あと、子ども達の人数が少なくなっている中で、県立学校の再編整備は、もう避けられない状況であり、特色をしっかりと出していくことも大切であると思っている。県教委でも色々と考えていると思うが、価値観や目指すべきことも多様化しているので、魅力ある学校づくりを意識しながら進めていただきたいと考えている。

●木阪委員

令和5年度重点取組主要関連事業では、県の発展を目指した新規事業がとて多く盛り込まれており、大変素晴らしいと思っている。

他の委員からもお話があったが、地域連携教育について、非常に興味・関心がある。学校部活動の地域連携・地域移行の受け皿について、地域の既存の組織や団体等が考えられているが、もっと相性の良い分野での模索も必要であると思う。例えば、どこの市町にもある観光協会などは、文化部系との相性が良いのではないかと考えている。地域・社会が抱える課題の解決やキャリアを構築する力、ICTを活用する人材の育成のためにも、中学生・高校生が活躍する場としての選択肢として、考えてみても良いのではないかと感じている。簡単ではないかもしれないが、割と既存の組織等を活用すれば、すぐにでもできるとしている。コロナ禍で、生徒達は情報収集力を身に付けており、地域の課題解決に向けて取り組むことで、大人たちも刺激を受けると思う。私は、柳井市に在住しているので、「金魚ちょうちん」というワードを使うと、「地域を救う金魚すくい」みたいな名称の部活動、プロジェクトをイメージしている。その際、生徒達から色々なアイデアが出たときには、次のアクションに向けて、観光協会や関係機関の方と、例えばチラシの作成や製品化等のサポート体制に向けて連携しても良いと思っている。

最後になるが、本県でも教員が不足しており、大変深刻な状況である。新たに教員を確保することも大事であるが、若い教員が、県外に流出しているということをつまに聞く。県としても大変な損失になるので、大いに汗を流し、そして知恵を絞っていただくことで歯止めをかけていただきたいと思っている。

●村岡知事

言われた通り、地域を知るという意味でも、観光協会は地域の魅力を一番把握しているため、既存の組織としては非常に適しているとお話を聞いて感じた。

また、「地域を救う金魚すくい」の名称も良いアイデアであると思った。やはり、子ども達が学ぶ際に、色々なものを提供できるし、さらには一緒に取り組みながら何かを解決していくことについて、地域にとってもウィンウィンの関係で非常に大きなプラスになると考えている。今の部活動の状態も維持できない中で、これからの進め方を模索する上で、最初から限定的に考えるべきことではなく、幅を広げてみて、それぞれの地域に合ったやり方で議論していくことが大切であると再確認できた。

それから、教師不足については、山口県も含め、全国的に深刻な問題になってきている。私も中央教育審議会の委員になっているが、そこでも大きなテーマになると思う。国としてもこの課題を受け止めて、どのように対策をしていくのかを考えていかないと、日本教育の根底に関わることである。教える人がいないという大変な問題になってしまうので、国全体の問題として受け止めて解決策を出していかなければいけないと考えている。皆様の色々な御意見や県教委からも実情を聞きながら、提案していきたいと思っている。教員の県外流出では、県教委でも分析をしていただき、少しでも食い止めるとともに、何らかのサポートをしていきたいと考えている。

●繁吉教育長

まず、知事には、来年度の予算編成に当たり、厳しい財政状況の中、子ども達の教育の充実のために、必要な予算を確保いただき、本当にありがたく思っている。

教育長になって、もう2年が経とうとしており、来年度が任期最後の年になる。そういった意味では、来年度13個の新規事業を認めていただき、本当に助かっている。特に、令和5年度は、新たに策定した「やまぐち未来維新プラン」に掲げている「新たな時代の人づくり推進プロジェクト」等に基づき、本県の強みを生かした教育活動の一層の充実・発展に取り組んでいきたいと考えているので、引き続き御支援、御協力をお願いしたい。

私からは、特に2点について、お話をさせていただく。

まず、1点目は、「やまぐちスマートスクール構想」のさらなる推進についてである。知事のリーダーシップのもとで、全国に先駆けて整備したICT環境を効果的に活用して、3年目を迎えることとなった「やまぐちスマートスクール構想」の取組をさらに推進することで、教育活動の一層の充実を図っていききたいと思っている。具体的には、成績情報の可視化等を行うことで、教育データを活用した学校運営や児童生徒一人ひとりに合った学びを支援するほか、クラウド型採点システムの導入による定期考査等の採点作業の省力化を図るとともに、全国に先駆けて、文部科学省推奨のフルクラウド環境を構築し、校務データと学習データを統合することで教職員の業務改善や働き方改革等を進めていきたいと思っている。また、県立学校では、ICT機器や環境に係る相談受付や故障対応を行うために県教委が設置をしている「やまぐちスマートスクール運営支援センター」に、新たに県内の5市町を加えることで、「やまぐちGI

GAスクール運営支援センター」に発展させ、ICT活用をサポートする広域的な体制を構築していきたいと思っている。県教委としては、ICT環境を最大限に活用し、子ども達の学び方改革、教員の教え方改革、さらには教職員の働き方改革の3つの改革に全力で取り組んでいきたいと思っている。

2点目は、いじめ・不登校対策の充実である。先ほど、佐野委員からもお話があったが、コロナ禍において深刻化している、いじめ・不登校等の問題を未然に防止するため、教育相談体制の充実を図ってまいりたい。特に、進学先での人間関係の構築や、新しい学校生活に馴染めない等の理由でいじめ・不登校の件数が多くなっている中学校1年生、高校1年生を対象に、入学前後の相談体制を充実したいと思っている。具体的には、全国初の取組として、中学校・高校入学前の全ての生徒を対象とした心理教育テストを実施することで、サポートが必要な生徒を早期に把握し、把握した生徒に対して、入学前から継続的にスクールカウンセラー等の相談に繋げていきたいと考えている。また、不登校対策の新たな取組として、通常の学級での学習や集団での生活が困難である生徒を対象に、別教室であるステップアップルームを設置した。ステップアップルームに配置された専属教員が個別に支援を行うことで、教室への復帰や不登校の未然防止を図っていきたいと思っている。県教委としては、こうした生徒指導上の取組をより一層充実させることで、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応や不登校児童生徒への適切な支援が実施できるように全力で取り組んでいきたいと思っている。また、委員からもお話があった地域連携教育の再加速、教師確保対策、それから部活動の地域移行等、教育を取り巻く喫緊の課題に対しても、しっかりと対応していきたいと考えている。

最後に、国において次期教育振興基本計画の策定に向けた議論が進められている。本県の次期教育振興基本計画についても、国の計画を参酌して策定することとなっており、現在、国の動向等も踏まえながら策定作業を進めている状況である。新型コロナウイルス感染症や教育のICT化等の急激な社会変化の中で、子ども達と教員の状況等を的確に捉えて、教育課題に対応した諸施策をしっかりと次期教育振興基本計画に反映をし、山口の未来を担う人づくりの推進に向けて、知事部局と一層緊密に連携しながら、本県教育の振興を図ってまいりたいと考えているので、引き続き御支援いただきたい。

●村岡知事

「やまぐちスマートスクール構想」、いじめ・不登校について、どちらも非常に問題意識が高く、しっかりと進めて欲しいと思っている。県教委の方でも中身を充実してもらって、大変ありがたく思っている。

「やまぐちスマートスクール構想」では、色々なものが実現してきているが、情報技術がどんどん進んでいるので、さらなるバージョンアップを期待している。教員の教え方も含めて、子ども達の学ぶ環境がより良くなるように、バージョンアップして欲しいと思っている。

それから、いじめ・不登校も深刻化しているので、今回の新規事業にとっても

期待をしている。是非、1人でも多くの子ども達が、つらい思いをして学校に行けなくなったりすることがないように取組をしっかりと進めていただきたい。

(2) について

「山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定について

○事務局から別添資料に沿って説明。

(3) その他

●村岡知事

本日は、令和5年度重点取組方針主要関連事業、次期教育大綱の策定を議題に、皆様から貴重な御意見、御提言を賜った。

令和5年度重点取組方針主要関連事業では、来年度の取組を説明させていただいたが、今年度策定した「やまぐち未来維新プラン」の取組やコロナ禍で色々と深刻化してきた課題への対応、これまでに整備してきた環境も生かしながら、山口県の子ども達のために、より良い充実した教育環境を整えていきたいと考えている。そのためにも、皆さんと想いを一つにしなが、引き続きしっかり取組を進めていきたいと思っている。

また、来年度は、教育大綱の策定も大きなテーマであるので、皆様におかれましても、引き続き、教育委員としてのお立場から御理解、御協力を賜ることをお願いして、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。